

## 9 専攻科目

### (果樹専攻)

85	果樹栽培概論	(1年)
86	果樹栽培各論	(1年)
87	果樹施設栽培論	(2年)
88	果樹機械施設利用演習	(1年)
89	果樹先端技術演習	(2年)
90	果樹病虫害対策演習	(2年)
91	果実加工演習	(2年)
92	果実流通論	(2年)
93	専攻実習	(1年)
94	専攻実習	(2年)

整理番号： 85

科目名： 果樹栽培概論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
佐野 達也	有	農業大学校職員8年、普及指導員7年経験

授業の目的 及び内容	果樹の生理、栽培技術に関する基礎的知識を学習する。
授業の方法	果樹の生理、栽培技術に関する基礎的知識について講義し、実演を行う。
到達目標	果樹の生理、栽培技術に関する基礎的知識について理解が深まり、栽培技術の基礎を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	出席率50%、筆記試験50%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果樹栽培の基礎①」 苗木生産と果樹園の開設・整備について学ぶ	2
2	「果樹の成長と果実生産①」 果樹の一生と1年について学ぶ	2
3	「果樹の成長と果実生産②」 各器官の成長と果実生産について学ぶ	2
4	「果樹栽培の基礎②」 果樹栽培の適地、年間の管理と良果多収の基本について学ぶ	2
5	「果樹栽培の基礎③」 基本となる栽培管理技術、土壌管理とかん水・施肥について学ぶ	2
6	「果樹栽培の基礎④」 枝の生長と整枝・せん定について学ぶ	2
7	「果樹栽培の基礎⑤」 施設栽培・高品質果実栽培について学ぶ	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 86

科目名： 果樹栽培各論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
影山 舞子	有	農業大学校職員4年経験、普及指導員6年経験

授業の目的 及び内容	果樹の種類・品種別の生理生態、栽培技術に関する専門的な知識を学習する。
授業の方法	果樹の種類・品種別の生理生態、栽培技術について講義し、実演を行う。
到達目標	果樹の種類・品種別の生理生態について理解が深まり、栽培技術を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	出席率40%、筆記試験30%、レポート30%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	「落葉果樹の栽培・利用①」 ナシの栽培・利用について学ぶ	2
2	「落葉果樹の栽培・利用②」 ブドウの栽培・利用について学ぶ	3
3	「落葉果樹の栽培・利用③」 モモの栽培・利用について学ぶ	2
4	「落葉果樹の栽培・利用④」 イチジクの栽培・利用について学ぶ	2
5	「落葉果樹の栽培・利用⑤」 カキの栽培・利用について学ぶ	2
6	「常緑果樹の栽培・利用」 カンキツ、ビワの栽培・利用について学ぶ	2
7	「落葉果樹の栽培・利用⑥」 オウトウ、ウメの栽培・利用について学ぶ	1
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 87

科目名： 果樹施設栽培論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
佐野 達也	有	農業大学校職員8年、普及指導員7年経験

授業の目的及び内容	果実の施設栽培の基本と栽培技術を学ぶ。
授業の方法	果樹の施設栽培技術について講義し、実演を行う。
到達目標	果実の施設栽培に対して、理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率50%、筆記試験50%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果樹の施設栽培－①」 施設栽培の基本（目的、効果、コスト、導入時の留意点など）を学ぶ	2
2	「果樹の施設栽培－②」 施設の仕組み（加温方式、被覆資材、多重被覆、吸排気方法、ダクトなど）を学ぶ	2
3	「果樹の施設栽培－③」 施設の運用（温度管理、かん水管理、採光、温度計・センサー類の取扱など）を学ぶ	2
4	「果樹の施設栽培－④」 施設栽培に付随する技術（炭酸ガス施用、天敵導入、環境コントロールなど）を学ぶ	2
5	「果樹の施設栽培－⑤」 施設における病虫害発生動向および対策を学ぶ	2
6	「果樹の施設栽培－⑥」 各品目（ミカン、イチジク、ブドウ）での施設栽培の実際を学ぶ	2
7	「果樹の施設栽培－⑦」 現場で起こりうる課題（生育不良・障害、気象災害、人鳥獣害など）の対処法を学ぶ	2
8	試験	1
9		
合計		15

整理番号： 88

科目名： 果樹機械施設利用演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
野沢保文（竹澤産業）	有	温風暖房機の保守点検業務
影山 舞子	有	農業大学校職員4年経験、普及指導員6年経験

授業の目的及び内容	果樹栽培に必要な農業機械及び施設の構造や機能を理解し、果樹栽培管理に必要な利用方法を習得する。
授業の方法	①講義参考資料を配布し、講義する。 ②温風暖房機の保守点検を演習し、レポートにまとめる。
到達目標	果樹機械施設の構造と利用方法について理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	出席率40%、理解度30%、受講態度30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果樹栽培用機械利用技術①」 除草のための乗用除草機等の取り扱いについて学ぶ	4
2	「果樹栽培用機械利用技術②」 動力噴霧器およびスピードスプレイヤーの取り扱い方法を学ぶ	4
3	「果樹栽培用機械利用技術③」 肥料散布のためのブロードキャストの取り扱いについて学ぶ	6
4	「果樹栽培用機械利用技術④」 土壌耕起のためのロータリーの取り扱いについて学ぶ	8
5	「果樹栽培用施設利用技術①」 果樹加温ハウスの暖房機の終業点検について学ぶ	4
6	「果樹栽培用施設利用技術②」 果樹加温ハウスの暖房機の終業点検について学ぶ	4
7		
8		
合計		30

整理番号： 89

科目名： 果樹先端技術演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
佐野 達也	有	農業大学校職員8年、普及指導員7年経験
坂野 満	有	農業総合試験場普及戦略部技術推進室

授業の目的及び内容	果樹の先端技術について、知識を深めるとともに、その一端を習得する。
授業の方法	果樹の先端栽培技術について、品目別に講義し、演習を行う。
到達目標	果樹の先端技術に対して知識を習得し、理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率50%、受講態度20%、レポート30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	「カンキツの高品質栽培研究について」 愛知県内のカンキツ研究状況を学ぶ	4
2	「果樹の省力化栽培について」 ブドウ・ナシを中心とした省力化栽培技術を学ぶ(外部講師)	8
3	「果樹の施設栽培について」 ハウスミカンを中心とした省エネ対策技術を学ぶ	4
4	「環境に優しい防除法」 モモ等で実施されている防除法を学ぶ	4
5	「環境に優しい栽培法」 イチジク等で実施されている栽培法を学ぶ	2
6	「果樹とバイオテクノロジーについて」 果樹を含めた愛知県内の研究状況を学ぶ	4
7	「低樹高栽培について」 カキの低樹高栽培について学ぶ	4
8		
9		
合計		30

整理番号： 90

科目名： 果樹病虫害対策演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
佐野 達也	有	農業大学校職員 8年、普及指導員 7年経験

授業の目的及び内容	果樹の主要な病虫害を理解し、季節と生育に応じた防除方法の基礎知識を習得する。
授業の方法	果樹の種類、品種別の病虫害発生状況について、観察を主体とした演習を行う。
到達目標	果樹の主要病虫害に対して把握し、防除方法を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率50%、理解度30%、学習態度20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果樹の病虫害の基礎①」 果樹における病虫害の基礎知識を学ぶ	6
2	「果樹の病虫害の基礎②」 落葉果樹における病虫害（休眠期、越冬、春先防除など）に対する考え方を学ぶ	4
3	「果樹の病虫害の基礎③」 常緑果樹における病虫害に対する考え方を学ぶ	4
4	「果樹の病虫害の基礎④」 果樹の耕種的防除（天敵、マルチ、清耕栽培、袋がけなど）について学ぶ	4
5	「防除方法の基礎知識①」 薬剤防除の考え方、薬剤の種類及び特徴を学ぶ	6
6	「防除方法の基礎知識②」 薬剤防除を行う上での希釈計算等を学ぶ	6
7		
8		
9		
合計		30

整理番号： 91

科目名： 果実加工演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
井川 千春	有	学識経験者

授業の目的及び内容	果実の特性を理解し、その栄養価に関する知識や加工方法を習得する。
授業の方法	講師作成資料を配布し、加工演習を行う。
到達目標	果実の特性を理解し、その栄養価に関する知識や加工方法について理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材	講師作成資料					
成績評価の方法・基準	出席率30%、理解度30%、受講態度40%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果実加工技術①」(外部講師) アズキのジャムへの加工について学ぶ	8
2	「果実加工技術②」 イチジクのジャム、カンキツ類のマーマレードへの加工について学ぶ	7
3	「果実加工技術③」(外部講師) ブルーベリー、モモのジャムへの加工について学ぶ	8
4	「果実農産物加工の現状」 加工された果実の現状について学ぶ	7
5		
6		
7		
8		
9		
合計		30

整理番号： 92

科目名： 果実流通論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
佐野 達也	有	農業大学校職員8年、普及指導員7年経験

授業の目的及び内容	果実流通について、知識を深めるとともに、果実の収穫販売技術を学習する。
授業の方法	果実の流通事情と品質・商品価値向上技術等について講義、実演を行う。
到達目標	果実の流通（販売）に対して、理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率50%、筆記試験50%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果実の流通事情」 果実の市場流通及び市場外流通について学ぶ	4
2	「果実の収穫適期」 収穫後の果実の生理について学ぶ	4
3	「果実品質の価値」 生産者、消費者の価値観について学ぶ	4
4	「果実の追熟・貯蔵技術」 西洋ナシの追熟・貯蔵及びブドウの貯蔵、カキの袋かけによる収穫遅延について学ぶ	2
5	試験	1
6		
7		
8		
9		
合計		15

整理番号： 93

科目名： 専攻実習（1年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	10	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
影山 舞子	有	農業大学校職員4年経験、普及指導員6年経験
佐野 達也	有	農業大学校職員8年、普及指導員7年経験

授業の目的及び内容	果樹の種類、品種別の栽培管理を通じて、生理生態を理解するとともに、基本栽培技術を習得する。
授業の方法	果樹の種類、品種別の栽培管理について講義し、実習を行う。
到達目標	果樹の種類、品種別の生理生態および栽培管理について理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率50%、理解度30%、受講態度20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果樹の栽培管理技術4月」 摘らい（モモ、ナシ）、新梢管理（ハウスブドウ・イチジク）等の管理を学ぶ	25
2	「果樹の栽培管理技術5月」 果穂整形・ジベレリン処理（ブドウ）、摘果（ナシ、モモ）等の管理を学ぶ	46
3	「果樹の栽培管理技術6月」 摘粒（ブドウ）、摘果（カキ）、袋かけ（モモ・ナシ・ブドウ）等の管理を学ぶ	60
4	「果樹の栽培管理技術7月」 モモ、ブドウ、イチジク、ナシの収穫調整作業を学ぶ ナシ、モモ、ブドウの夏季新梢管理について学ぶ	20
5	「果樹の栽培管理技術9月」 ナシ、ブドウ、イチジク、ハウスミカンの収穫調整作業を学ぶ ナシ、モモ、ブドウの夏季新梢管理について学ぶ	32
6	「果樹の栽培管理技術10月」 カキ、ナシの収穫調整作業を学ぶ	81
7	「果樹の栽培管理技術11月」 果樹の土壌管理作業（施肥、耕起）を学ぶ	20
8	「果樹の栽培管理技術12月」 モモ、ウメ、ブドウの整枝せん定、加温準備（ハウスミカン）について学ぶ	50
9	「果樹の栽培管理技術1月」 ハウスビニール張り（ハウスブドウ）ナシの整枝せん定について学ぶ	12
10	「果樹の栽培管理技術2月」 カキの整枝せん定について学ぶ	60
11	「果樹の栽培管理技術3月」 イチジクの整枝せん定、果樹施設栽培管理について学ぶ	44
合計		450

整理番号： 94

科目名： 専攻実習（2年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	12	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	果樹専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
佐野 達也	有	農業大学校職員8年、普及指導員7年経験
影山 舞子	有	農業大学校職員4年経験、普及指導員6年経験

授業の目的及び内容	果樹の種類、品種別の栽培管理を通じて、生理生態を理解するとともに、基本栽培技術を習得する。
授業の方法	果樹の種類、品種別の栽培管理について、実習を行う。
到達目標	果樹の種類、品種別の生理生態および栽培管理について理解が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	019 果樹	杉浦 明	農文協			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率50%、理解度30%、受講態度20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	「果樹の栽培管理技術4月」 摘らい（モモ、ナシ）、芽かき（ブドウ）、果穂整形（ハウスブドウ）	40
2	「果樹の栽培管理技術5月」 果穂整形・ジベレリン処理、新梢誘引（ブドウ）、摘果（ナシ、モモ）	40
3	「果樹の栽培管理技術6月」 摘粒（ブドウ）、摘果（カキ・ナシ）、袋かけ（モモ・ナシ・ブドウ） モモの収穫調整作業を学ぶ	120
4	「果樹の栽培管理技術7月」 モモ・ナシ・ブドウの夏季新梢管理を学ぶ ブドウ、モモ、ナシ、イチジクの収穫調整作業を学ぶ	80
5	「果樹の栽培管理技術9月」 ナシ、ブドウ、イチジク、ハウスミカンの収穫調整作業を学ぶ モモの秋季新梢管理について学ぶ	50
6	「果樹の栽培管理技術10月」 カキ、ナシの収穫調整作業を学ぶ ハウスブドウのビニル張り替え作業を学ぶ	60
7	「果樹の栽培管理1技術1月」 土壌管理作業（耕起、施肥）、モモの整枝せん定について学ぶ	80
8	「果樹の栽培管理技術12月」 ブドウ、ナシ、カキ、ウメの整枝せん定について学ぶ	70
9		
合計		540